

平成23年度病害虫発生予報第2号

平成23年4月28日
愛 知 県

1 普通作物

コムギは春先からの低温で平年に比べ出穂が遅くなっています。赤かび病は防除適期を迎えているので、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考に防除を実施してください。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は急激な温度変化やかん水ムラなどが発生を助長します。適正な温度管理などに気をつけましょう。

2 果樹

チャバネアオカメムシの越冬世代成虫は少ないため、6月末まで不必要な薬剤散布は控え、カイガラムシ類の天敵を保護するように努めましょう。

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺数及び誘殺ピーク時期はおおむね平年並です。越冬世代成虫はウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り園外に持ち出し処分しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除時期は、有効積算温度から計算すると昨年よりも遅くなると予測されます。防除適期を外さないように注意しましょう。詳細は本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

モモせん孔細菌病は昨年の発生が多く、4月下旬には強風を伴った降雨があったため、発生の増加が予測されます。防除を徹底しましょう。

ナシ黒星病は、一部のほ場で、葉での発生を確認しています。4月下旬にまとまった降雨があったため、今後、発生の増加が予測されます。天気予報を参考に防除時期を逃さないように注意しましょう。また、発病葉や発病果を見つけたら、取り除き、園外に持ち出し処分しましょう。

ブドウ黒とう病は、ブドウの生育が遅れており発病を確認していませんが、降雨が続くと多発しやすくなります。前年の発病枝や巻きひげは伝染源になりますので、切り取って園外に持ち出し処分しましょう。

3 野菜

タマネギべと病の発生は平年並ですが、今後降雨が続くと発生量が増加するので、降雨後速やかに防除を実施しましょう。また、タマネギ黒腐菌核病が発生しているほ場があります。べと病、黒腐菌核病とも罹病株及び被害残さは次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況です。またキュウリでミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトでタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生が多いほ場があります。それぞれ収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

4 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類、ハダニ類が増加する時期になりますので、親株床も含めて防除しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	少ない	全域	前年の穂いもち発生量は少ない	－
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない	－
ムギ	うどんこ病	やや少ない	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は少ない	± －
	赤かび病	やや少ない	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は少ない	± －

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	3月の越年罹病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	3月上旬の発生量は少ない 5月の気温は平年並	－ ±
ナシ	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量は平年並 4月下旬の発生量は やや多い 4月下旬の降水量は 多い	± + +
	アブラムシ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	前年秋の発生量は多い 4月下旬の発病枝率は平年並 4月下旬に強風を伴った降雨があった 5月の降水量は少ない	＋ ± ＋ －
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	± －
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は少ない	－ ± －
	べと病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月下旬の降水量は多い 5月の降水量は少ない	± ＋ －
カキ	炭疽病	やや少ない	全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は少ない	± －
	うどんこ病	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は少ない	－ －
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	越冬量調査による越冬世代成虫数は少ない	－

・防除対策

【ナシ・黒星病】

発病葉及び発病果は見つけ次第、取り除き園外へ持ち出し処分しましょう。インダーフロアブルやチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

【モモ・せん孔細菌病】

枝病斑は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。バリダシン液剤5、スターナ水和剤などで防除を徹底しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや少ない	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は少ない	± －
トマト (施設)	コナジラミ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	ハダニ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	多い	全域	4月下旬の発生量は多い	+

・防除対策

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

アファーム乳剤やコテツフロアブルなどで防除しましょう。なお本種は黄化えそ病の原因ウイルス（MYSV）を媒介します。黄化えそ病発病株を見つけたら直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出し密封するなどして適切に処分しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	全域	親株での発生量は平年並 5月の降水量は少ない	± -
	アブラムシ類	やや少ない	全域	黄色水盤における誘殺数はやや少ない	-
				黄色粘着トラップによる誘殺数はやや少ない 5月の気温は平年並	- ±

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台4月22日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目（4月23日～29日）は低い確率60%、2週目は平年並または高い確率とも40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〈予想される天候の特徴〉

向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ高気圧に覆われやすく晴れの日が多い見込みです。

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。